

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成20年 1月25日

【評価実施概要】

事業所番号	0771100013		
法人名	医療法人 崇敬会		
事業所名	グループホーム「さくら」		
所在地	〒963-4313 福島県田村市船引町船引字馬場39番地1 (電話) 0247-81-2881		
評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8043 福島県福島市中町4-20 みんゆうビル302号室		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価確定日	平成20年2月14日

【情報提供票より】 (平成19年10月1日事業所記入)

開設年月日	昭和・平成 17年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤 9人, 非常勤 4人, 常勤換算 11人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階建ての	1階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,333 円	その他の経費(月額)	14,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 300 円	昼食 400 円	夕食 おやつ 100 円
または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護 1	2 名	要介護 2	3 名
要介護 3	3 名	要介護 4	5 名
要介護 5	5 名	要支援 2	0 名
年齢 平均	84 歳	最低 70 歳	最高 96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	清水医院、さいす歯科		
---------	------------	--	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

医療法人設置のグループホームであり、周囲には、同法人運営の診療所、老人保健施設、訪問看護・介護ステーション等介護保険関連事業所があり、医療と介護の連携が図られ、利用者の安心・安全が確保されている。大型店も近くにあり地域との繋がりを重視した地域密着型サービスを提供するホームとしての環境は整っている。したがって、まだ未設置の運営推進会議を早急に設置し、ホームとしての基本理念についても地域密着型サービスの役割を反映した新しい基本理念に作り変え、職員が理念を十分理解し、理念の実践に向けて取り組むことが望まれる。ケアマネジメントにおける、利用者の意向や暮らし方の希望については、センター方式を活用し把握に努め、介護計画に反映させた内容となっており、ケアの評価を行い、現状に即した見直しがなされている。ボランティアの方と共に利用者も楽しげに自由に過ごしている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目: 外部4)
	前回の評価で要改善となった、利用者の金銭管理については、家族に支出明細と領収書を送付し、適正に管理されるようになった。また、運営推進会議の設置を要望したが、まだ未設置であるため、できるだけ早急に設置を行なうよう取り組むこととしている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目: 外部4)
	自己評価は全員が全項目について取り組むまでには至っていない。しかし、評価の意義については理解しており、今後は、全職員で取り組み、外部評価の結果についても具体的に改善に向けて検討を行なうこととしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目: 外部4, 5)
	運営推進会議はまだ設置していないので、法人の事務責任者が中心となり、行政とも連携しながら、地域の代表者の理解と協力を得ながら早急に設置することとしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目: 外部7, 8)
	利用者の家族は毎月定期的に訪れており、その際に職員が直接利用者の近況を知らせたり、要望や苦情についても率直に話していただくよう配慮している。また、家族から預かっている金銭については、支出明細と領収書を添付し適正に管理している。
日常生活における地域との連携(関連項目: 外部3)	日常生活中における地域との連携(関連項目: 外部3)
運営推進会議が未設置であるため、地域の代表者等の理解や協力を得ながら、一層の地域との交流や連携が必要である。しかし、傾聴ボランティアや本の読み聞かせや紙芝居を行なうボランティアが定期的に訪問している。また、敬老会に参加する利用者もあり、開かれたホームとしての行事等をPRしたり、地域の行事へ参加し、交流を促進するよう検討が行われている。	運営推進会議が未設置であるため、地域の代表者等の理解や協力を得ながら、一層の地域との交流や連携が必要である。しかし、傾聴ボランティアや本の読み聞かせや紙芝居を行なうボランティアが定期的に訪問している。また、敬老会に参加する利用者もあり、開かれたホームとしての行事等をPRしたり、地域の行事へ参加し、交流を促進するよう検討が行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスとしての理念づくりを検討しているところである。	○	地域的にも住民の協力が不可欠であることから、地域との関係性を重視し、住民との交流の下に、グループホームの果たす役割を反映した独自の理念を期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域密着型サービスの理念が明確化し、職員全員が意識して理念を具現化する取り組みを行なうことが必要である。	○	職員全員で基本理念を作り上げ、理念の中身を十分熟知し、意識しながら日常的なケアに活かすことが重要である。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会への加入はまだだが、傾聴・紙芝居・理美容など多様なボランティアの来訪がある。敬老会は、利用者各自の出身地域の敬老会へ参加している。地域との交流に努めているところである。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	介護保険法の改正により運営推進会議の設置が義務付けられたため、特に、前回の評価で改善指示があった。しかし、まだ取り組みが行なわれていなかったのは残念である。	○	運営推進会議の設置について、法人として検討が行われているので、早急に設置されるよう望む。関係者全員が評価の意義を理解し、改善に取り組まれるよう期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は未設置である。	○	法人の事務責任者と管理者が中心となり、地域包括支援センターと連携し地域住民の代表との理解や協力を得ながら委員の選任を行なうこととしているので、運営推進会議を十分活用し評価結果の公開等により、地域密着型サービスとしての質の向上に努められたい。
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしづくりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の利用料はほとんどの家族が現金で納入するシステムになっているので、来訪時に利用者の近況・受診状況や金銭出納について報告している。口座引落をしている家族には、電話や郵送で近況を報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族や知人の来訪時には、意見や要望を気軽に言い出せる雰囲気づくりに努め、建設的・積極的な提案には速やかに対応するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	同法人設置の老人保健施設や訪問看護ステーション等との人事交流もあるが、職員の異動は極力少なくするようにしている。開設以来の異動は非常勤職員のみで常勤職員の異動はない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修についての情報は職員全員に提供し、研修参加を勧めている。		ホーム独自の研修計画を作り、段階的にステップアップやスキルアップ研修を行なうとともに、研修に参加した結果報告をスタッフ会議などで発表するなどの方法で情報の共有化を図ることが望ましい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修を受講しているが、同業者間の交流はまだ計画されていない。		開設後3年目を迎えてるので、他のグループホームを参観するなどから始めて、積極的に交流を図ることを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するためには、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者同士で俳句会を作っていて、短冊に書かれた作品が共用空間の壁や通路に沢山飾られている。春から秋にかけては菜園や花壇の作業を利用者と一緒に行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの情報シートを活用し、現在の状況に対し、どのようになることを望んでいるのか等馴染みの暮らしを維持できるよう、利用者が望む思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用者の課題やニーズを見極めながら、家族等と話し合いを行い、介護計画の援助目標を立て、具体的な援助内容を記載した計画となっている。日常の介護記録の中では、計画に即したケアの実施記録が明記されている。また、1ヶ月ごとに介護内容の評価を行ない、現状に合った利用者本意の計画となっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月1回、ケース検討会議を行い、介護内容の評価と利用者の状態変化に対応した計画になっているかの検討を行い、その都度見直しを行い、現状に即した計画となっている。また計画変更についての家族や利用者の同意を得ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)			

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や職員が付き添い、かかりつけ医等の受診が行なわれている。受診内容は家族に報告し適切な医療受診が行なわれるよう情報を共有し、支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた対応指針や重度化に伴う意志確認書は整備されていない。ただ、重度者の状態変化が見られた場合は、その都度対応についての方針は共有している。	○	医療連携体制加算対象のホームであることから、日頃より急変時に対応できるよう、かかりつけ医等により話し合いの機会を設け、統一した対応指針を定め、重度化に伴う意志確認書を作成し、入居時に家族等にも説明することが重要である。また、状態変化があるごとに利用者の尊厳と家族の意思を尊重し、方針を共有し支援することが必要である。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の利用目的については十分説明し、利用者のプライバシーの尊重に努めており、日頃より人格を尊重した言動をとるよう留意している。職員からも採用時に守秘義務に関する誓約書を徴している。		家族等が面会時に氏名などを記入するノートが置いてあるが、一覧記入のため面会者名の個人情報が開示されている。利用者毎にインデックスをつけるなどの改善策を検討してほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買い物等その時の利用者の気持ちを尊重しできるだけ利用者の希望に沿った支援に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	法人内の老人保健施設の栄養士による献立を参考にし、利用者と一緒に食材を買いに行ったり、盛り付けをしたりしながら全員で食事を楽しむ工夫をしている。職員も利用者と一緒に味わいながら支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	できるだけ利用者の希望に合った時間に入浴できるよう努めている。特に入浴を訴えない利用者には、さりげない言葉かけで定期的に入浴を誘うよう配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	利用者が馴染んできた生活歴を活かし、家事のお手伝い、買い物、折り紙、塗り絵等得意とする分野での役割や楽しみごとを活かしながら支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に岡かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	外で食材を運んだり、日光浴をしたり、散歩をしたりしながら、日常的に希望に沿うよう支援している。知人の葬儀に出席される利用者も見られた。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	東館は日中は鍵はかけていない。西館は構造的に玄関からの出入り状況の確認が困難であることから、安全面を配慮しセンサーによる確認を検討しているところである。職員がリビングを活用し、記録等を行ないながら、さり気なく見守っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の定期的に広域消防団の協力を得て避難訓練を行なっている。自衛消防の研修会に参加し職場内研修を行なっている。法人全体で防災計画や災害発生時の役割分担を作成し、備蓄も整備されてある。		日頃より、地域住民や警察署、消防署等の連携により協力体制を整えておくことが必要である。運営推進会議を活用し協力を得ることも一つの方法である。また、非常口から避難する場合、避難通路が生垣で遮蔽されているので、検討されたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の水分、食事の摂取状況、バイタルチェック等利用者の個人ごとの生活チェックを行なっている。栄養士による献立表を参考に栄養バランスに留意し、水分補給にもきめ細かに対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を探り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや通路には手芸品や俳句の短冊、利用者個人の生活目標などが記載されたカードなどが貼ってあって、利用者の意欲的な行動を感じられる。東・西館の玄関は別になっているが、リビング内の各事務所を経由して行き来できるので、ボランティアの来訪日には、ボランティアのいる場所に利用者がそれぞれ異動し挨拶を交わしながら楽しんでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	明るい日差しが差し込む居室は、畳に布団・ベッド利用者それぞれに利用者個人の好みを生かしたしつらいになっていて、快適に過ごしている様子がうかがわれた。		

※  は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事 業 所 名 グループホーム「さくら」

記 入 担 当 者 名 大内 那美恵

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目No.を記入してから内容を記入してください。